

平成 29 年度 一般入学試験問題（Ⅱ期 A 日程）

# 国 語

## 注意事項

1. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
  - ①氏名欄  
氏名・フリガナを記入しなさい。
  - ②空欄  
「年月日欄」の右横の空欄に「国語」と記入しなさい。
  - ③番号欄  
受験番号を左詰めで記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
2. この冊子は、問題が 22 ページあります（余白 1 ページ含む）。
3. 試験中に印刷の不鮮明、落丁・乱丁あるいは解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出てください。
4. 受験番号が正しくマークされていない場合、採点できないことがあります。
5. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。たとえば、

10
----

と表示のある問いに対して 3 と解答する場合は、(例) のようにマークしなさい。

(例)

解答番号	解答記入欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

□ 次の問に答えなさい。

問一 次の言葉の類義語を、それぞれ1から3の中から選びなさい。解答番号は、①は□1、②は□2、

③は□3

① 器量 1 技能 2 恰幅 3 容貌

② 朝暮 1 累日 2 終夜 3 旦夕

③ 矛盾 1 葛藤 2 否定 3 整合

問二 次の言葉の対義語を、それぞれ1から3の中から選びなさい。解答番号は、①は□4、②は□5、

③は□6

① 貫徹 1 挫折 2 屈服 3 空転

② 爽快 1 喪心 2 鬱屈 3 沈滞

③ 伸長 1 矮小 2 萎縮 3 細密

問三 次の語の空欄に、それぞれ1から3の中から漢字を選んで補い、四字熟語を完成させなさい。解答番号は、①は

②は 、③は

- ① 温厚□実                    1 誠                    2 篤                    3 質
- ② 快刀乱□                   1 麻                    2 舞                    3 発
- ③ 合□連衡                   1 戦                    2 体                    3 従

問四 次の語の空欄に、それぞれ1から3の中から語を選んで補い、慣用句を完成させなさい。解答番号は、①は

②は 、③は

- ① 枯れ木も  のにぎわい                    1 花                    2 山                    3 町
- ② 手を  見ていた                    1 砕いて                    2 焼いて                    3 こまねいて
- ③ 物議を                     1 示した                    2 醸した                    3 醸し出した

問五 次の故事成語の意味を、それぞれ1から3の中から選びなさい。解答番号は、①は 、②は 、③

は

①他山の石

- 1 自分より劣っている人の言行でも、自分の知徳を磨いたり反省の材料とすることができる。
- 2 他人の良い言行は、自分の未熟さを反省する材料となったり、成長するための手本となったりする。
- 3 尊敬されるような人間になるには、小さい世界にとどまらず、積極的に他人と交わるべきである。

②和光同塵

- 1 天才であっても凡人であっても、人間としての価値には変わりがない。
- 2 日本の文化のすばらしさを賛美するだけでなく、海外の文化への尊敬も忘れない。
- 3 自分の才能や学徳を隠し、俗世間に交じって目立たないように生活する。

③破天荒

- 1 今まで人がなし得なかったことを初めて行う。
- 2 人が驚くような、豪快で大胆なことをする。
- 3 人の制止や忠告を無視して、好きなように行動する。

空白ページ

二 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

夜明けの空に向かって、数百単位の真雁がまっしぐらに飛翔していく。すぐに隊列を組むことができるのは、あの夜を徹しての会議の結果なのだろうか。それとも、いまこの瞬間も互いに合図を送り合っているのだろうか。光の中に飛び込んでいく彼らの細く澄んだ声は、まるで姿の見えない仲間と呼び合っているかのように、

飛び立った群れはすぐに「<sup>①</sup>雁の棹」となり、次々と空の中に吸い込まれていく。もの悲しげな声が、一つまた一つと頭上の空を横切る。それとともに、ギョツギョツときしむような羽音が、<sup>②</sup>粛々と通り過ぎた。

自転する地球が風を送って「それ」と号令をかけたかのように、彼らは一瞬のうちに隊を作り上げて飛び立っていく。そしてその隊は、近くの畑でのどかに餌をついばんでいるときでさえも、けっして崩さない。これから始まるシベリアへの旅がどんなに<sup>③</sup>過酷なものなのかは、渡りを初めて経験する幼い鳥たちでさえ、本能的に知っているかのようだ。だから沼の水を蹴散らしながら戯れているときも、彼らの内にはその旅に、<sup>ア</sup>臨む生命の緊迫感が絶えず秘められている。地球の自転がいつ号令をかけても飛び立てる、彼らの体にはそんな大地のサイクルが組み込まれているように思えた。こうして彼らは、<sup>④</sup>地球と風との間で緊迫した瞬間を交換し、ついに時を定めて出陣する。大地の鼓動に、<sup>イ</sup>応えるかのように羽ばたく翼の音、それは私にとって大地の音にほかならなかった。

(中略)

夕方、田畑でたつぷりと餌を食べた彼らが再びねぐらを求めて戻ってくる、「沼入り」の時間になった。

(中略)

太陽が急速に西に傾き宇宙のねぐらへと急ぎ始めると、真雁は雲と太陽の残光の境界をたどりながら迂回し、隊列となつてどんどんと沼に入つていった。まるで **B**。

そして、沼のほとりにある一本の木の上で彼らは決まつて隊を崩し、一羽ずつ錐揉みしながら速度を落とし始めた。風を受けて速度が落ちなければ、何度も宙返りを繰り返して着水体勢を作り、人間から遠い水面へと消えていくのだった。

(中略)

さて、この北海道旅行で作った「入り日分け帰雁の隊は沼目指す」という俳句をある雑誌に投句したところ、「<sup>⑤</sup>隊という表現は不明瞭です」というご指摘をいただいた。

いわれてみれば、なるほどそのとおりだ。雁の場合、空を美しい形のまま横切っていく姿が有名で、季語にも変化に富んだ描写がたくさんある。ために『新版 季寄せ』(角川書店)からいくつか挙げてみると、「春の雁」では春雁、残る雁というのがある。「帰る雁」では雁行く、おくれ雁、雨の帰雁といった具合だ。秋には、「雁の棹」「雁の文字」など、飛翔を描いた季語が豊富にある。おそらく選者は、雁は「棹」とか「鉤」でよいので、「隊」という言葉をあえて使う必要はないでしょうと **C** のだと思う。

けれど、私の実力では、「雁の棹」といった描写だけで、沼入りの迫力を余さず詠むことはなかなか難しい。「雁の棹」が秋の季語で、私たちが見た雁は春の雁だったという季節的な矛盾をさておいても、遠い空を飛ぶ雁の棹と、いましもこちらに向かってまっすぐに飛び込んでくる雁の隊列とは、どうも違うような気がしてしまうのだ。

秋の季語の中には、雁を「沼太郎」と呼ぶものがある。私が見ている彼らの姿は、どちらかというところに近いのではないかと思う。つまり、雲の彼方を飛翔する雁の群れを、一つの図柄として見上げ、

「あな、みよ、雁が飛び申す」

などと「愛<sup>ウ</sup>でる感<sup>ウ</sup>触<sup>ウ</sup>ではないのだ。彼らは、美しい姿のまま彼方に飛び去っていくのではない。命をかけて沼にぬぐらを求めて来るのだ。いまにも、その声や羽音に手が届きそうなくらい近くまでやって来る。それはまさに、壮絶な北帰行に備えた真剣な行動だ。私はそこに、戦いに挑む戦士たちの殺気さえ感じた。だから、「棹」という図柄より、「隊」という緊迫感を表現してしまったのだ。もちろん、いただいたご指摘はとても参考になったので、さらに時間をかけてよい言葉を探していこうと思っている。

俳句を作つてよくぶつかる問題の一つに、私が感じた感<sup>ウ</sup>覚<sup>ウ</sup>的な情景と目で見た図柄との間のギャップがある。目で見る俳句では、写生する作者と被写体との間に **D** があり、美しく図柄を描ければ感<sup>ウ</sup>覚<sup>ウ</sup>も捕えてしまうところがあるような気がする。

ところが、視覚を差し引いた感<sup>ウ</sup>覚<sup>ウ</sup>でこの **D** 感<sup>ウ</sup>を出すのはたいへん難しい。どうしても、手に取るようなリアルな感<sup>ウ</sup>触<sup>ウ</sup>が強く表現されてしまい、時には客観性が失われることもある。被写体（正確には句材）に感情移入があればあるほど、<sup>⑦</sup>その落<sup>ウ</sup>とし穴にはまる危険性も増すのかもしれない。

かと思つと、私が聞いた会話を何の気なしに俳句にすると、

「目で見たわけでもないのに、どうしてわかるんですか」

などと聞かれて、あわてることもある。

「初鴨ににらみ返さる双眼鏡」というのを作つたときもそうだった。私はそばにいたウオッチャーが、

「向こうを見たら、カモににらみ返されちゃったあ」

と言っているのを俳句にただけなのだが、これを読んだ方は、私自身が双眼鏡を覗いたかのように受けとってしまったのだらう。

俳句作りに視力の有無は関係ないけれど、こうしてみると、また<sup>⑧</sup>「楽<sup>ウ</sup>しからずや<sup>ウ</sup>である。

（三宮麻由子『そつと耳を澄ませば』）



問一

A

にあてはまる最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

16

1 所在なく

2 惜しみなく

3 とめどなく

4 余儀なく

5 如才なく

問二 傍線①「雁の棹」とはどういう意味か。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

17

1 雁の群れが空中で列を崩してバラバラに飛ぶこと

2 雁の群れが長くまっすぐに連なって飛ぶこと

3 雁の群れがV字形を作りながら飛ぶこと

4 雁の群れが細く長い鳴き声をあげながら飛ぶこと

5 雁の群れが猛スピードを保ちながら飛ぶこと

問三 傍線②「肅々と」の意味として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 静かで厳かな様子
- 2 しよんぼりとして元気がない様子
- 3 何かを堪え忍んでいる様子
- 4 大声で泣き叫ぶ様子
- 5 ゆったりと移動する様子

問四 傍線③「過酷」の類義語として最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 辛辣
- 2 残酷
- 3 非情
- 4 冷厳
- 5 苛烈

問五 傍線ア「臨む」、イ「応える」、ウ「愛でる」の読みの組み合わせとして最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。

い。解答番号は 

20
----

- 1 アⅡのぞむ      イⅡそろえる      ウⅡまなでる
- 2 アⅡいどむ      イⅡつかえる      ウⅡうでる
- 3 アⅡいそしむ      イⅡもだえる      ウⅡあいでる
- 4 アⅡのぞむ      イⅡこたえる      ウⅡめでる
- 5 アⅡいどむ      イⅡひるがえる      ウⅡえでる

問六 傍線④「地球と風との間で緊迫した瞬間を交換し」とはどういうことを表しているのか。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 

21
----

- 1 大地と空気の反発によって生じる悪天候を、事前に察知すること
- 2 野生の本能によって、大自然を意のままに操ろうとすること
- 3 飛び立たせまいとする大自然の強大な力に、必死で抵抗すること
- 4 地球の自転と風の流れを、自分たちのペースに合わせてやうとすること
- 5 飛び立つのに最適な時を大自然から読み取ろうと、神経をとぎすますこと

問七

**B**にあてはまる最も適当な比喻を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は **22**

- 1 遠足の小学生たちが、列を作ってウキウキと歩いているかのように
- 2 制御不能になって失速したロケットが、勢いよく墜落しはじめるかのように
- 3 名パイロットが、管制塔の指示もなしに見事なテクニクで着陸を果たすかのように
- 4 冒険家が、何が現れるかわからない洞窟の中を宝を目指して突き進むかのように
- 5 ベルトコンベアーに乗った製品が、次々と目の前を流れていくかのように

問八 傍線⑤に「隊という表現は不明瞭です」とあるが、なぜ不明瞭だという指摘がされたのか。最も適当な理由を、次の1から

5の中から選びなさい。解答番号は **23**

- 1 雁の飛翔を表現するのにふさわしい伝統的な言葉ではなく、一般性のない言葉を使用しているため、読者に句の意味が伝わりにくいから
- 2 隊という言葉の正確な意味を作者が把握しておらず、誤った用法で使ってしまったため、まったく意味不明な句になっているから
- 3 雁は本来春や秋の俳句の中に詠み込まなければならないのに、隊という言葉を使うと季節が違ってしまいうから
- 4 雁の生態を正確にふまえた言葉の使い方をしていないため、何を詠んだ句なのかを読者にはわかりづらいから
- 5 俳句に使用する言葉はあらかじめ定められているので、ルール違反の言葉を使うと読者が混乱し、句の意味を理解できなくなるから

問九 傍線⑥「季寄せ」と同じ意味の語はどれか。最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 句辞典
- 2 詞花集
- 3 歳時記
- 4 季語帳
- 5 四季録

問十  にあてはまる最も適当な尊敬語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 お言いになった
- 2 申された
- 3 おっしゃられた
- 4 申した
- 5 おっしゃった

問十一 筆者はなぜ自分の俳句に「隊」という表現を使ったのか。最も適当な理由を、次の1から5の中から選びなさい。解答番

号は 26

- 1 手の届かないほど遠くを飛ぶ雁の高貴な美しさを描くのではなく、人間たちの身近にやって来る親しみやすい雁の姿を表現したかったから
- 2 遠くのを飛翔する雁の美しさを絵のように捉えるのではなく、北国への長旅を控えた雁たちの切迫した雰囲気表現したかったから
- 3 弱肉強食の厳しい自然界で生き残るために、時には他の動物との戦いも辞さない勇敢な雁たちの姿を表現したかったから
- 4 俳句作りのキャリアがまだ浅く未熟なため、他の人が使わないような言葉を使って実力不足をカバーしようと考えたから
- 5 雁の群れが地上から遠く離れていくのではなく、地上の目標に向かって近づいてくるような明確な方向性を表現したかったから

問十二

D

にあてはまる最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

27

- 1 重量
- 2 立体
- 3 境界
- 4 距離
- 5 色彩

問十三 傍線⑦「その落とし穴」とは何のことか。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

28

- 1 被写体を詳細に表現しすぎる事
- 2 自分の感情を抑えてしまう事
- 3 自分の感覚にこだわりすぎる事
- 4 客観的に表現できなくなる事
- 5 感覚と現実の情景が一体化する事

問十四 傍線⑧「楽しからずや」とはどういう意味か。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号

は 29

- 1 楽しくないこともないだろう
- 2 なんと楽しいことだろう
- 3 全然楽しくないだろう
- 4 楽しかったことはないだろう
- 5 楽しいこともあるだろう

【三】 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

「金の生る木」と秘密主義

もうひとつの重大な科学の変容、それは経済との結びつきである。いまや科学研究は企業との<sup>⑥</sup>レンケイが欠かせない。企業の研究所で行われている研究も非常に多いし、大学など公的な研究機関であっても、実際には企業からの寄付金が出ていたり、企業の社員が研究機関に出向して実験の担い手となっていたり、といったことはごく当たり前になっている。

しかし、企業と結びついていても、その研究が純粋に科学的興味から進められているのならば、従来の科学と同じである。だが<sup>①</sup>事態はそう簡単ではない。

<sup>1</sup> 私たちの番組のもう1人のご意見番、ノーベル物理学賞受賞者であるスタンフォード大学教授のロバート・ラフリンは、その点に言及している。

「残念ながら科学は、かつてのように純粋に知的好奇心を満たすだけのものではなくなっています。いまは企業が関わり、特許が絡み、役に立つ製品作りを求められ、科学は金儲けの材料ともなっているのです。そうした世界では、だま<sup>②</sup>しや秘密主義が起こりやすいものです。

いま、科学の本質が大きく姿を変えてきていることに、私たちの目をもっと向けていく必要があると思います」

科学研究は「<sup>③</sup>金の生る木」、そうした認識が、科学そのものを<sup>⑦</sup>変貌させてしまっているのである。

実際、<sup>2</sup> シエーンの事件でも、シエーンの側からなかなか実験についての詳しい情報が出てこなかったとき、多くの研究者が「これは特許が絡んでいるために公けにでき<sup>⑧</sup>ない情報がたくさんあるに違<sup>⑨</sup>い<sup>⑩</sup>ない」と思ったという。情報をすべて開示し、世の中のために、追試を行うほかの研究者のために、その情報を有用に使ってもらおうのが、科学の本来のあり方である。しかし、これほ



どまでに企業が入り込み、特許が幅を利かせてしまっているいまの科学界においては、情報が表に出てこないことに対して大きな疑問は湧きにくい。ラフリンが言う「秘密主義」が、科学の世界にもしっかりと根づいてしまっているのである。

純粹に科学を追究する立場では、研究の成果は等しく社会にただで<sup>③</sup>カンゲンされるべき、というのが正論であろう。

**I**、科学研究の予算の大部分は、国など公けの資金が用いられているのである。<sup>④</sup>論文の先取性はもちろん大事ではあるが、それさえ確保されれば、あとはあらゆる研究の情報は本来、公けの名の下に捧げられるべきものであった。情報は公開されるすべての人々の共有財産となるからこそ、論文ですべてを明らかにし、学会などで発表を行うのである。そこで出てくる情報は包み隠すようなことはあつてはならないものだった。論文発表はある意味で、その研究を公けに捧げる通過儀礼のようなものでもあつたのである。

**II** 実際には、論文にすべての情報がなくても、科学者たちはそれをおかしいとはまったく思わ<sup>d</sup>ないようになってい<sup>e</sup>る。恐らく表には出せない情報があるのだろう、と判断するフィルターが働いてしまうのである。**III**、秘密主義をいつのまにか容認しているわけである。いま、科学とは、知的好奇心を担うものではなく、秘密裏に我先にと世の中に有用な研究を推し進めて特許で金を稼ぐ手段である、といった極端な考え方すらまかり通るようになってしまったのである。

特許の存在は、ある意味では論文の重要性をはるかに超えて、科学研究でもっとも大切なものとも見なされるようになってきている。うまくいけば、まさに金儲けの格好の材料となる。近年、日本でも企業内研究者が発明・発見した特許をもとにした対価要求訴訟が相次いでいる背景には、こうした科学そのもののあり方の変容があるとも言える。**IV**、成果を公けに「捧げる」スタンスとは異なるものだろう。

ベル研究所も、シェーンの研究にまつわる特許の取得を急いでいた。たしかにシェーンの研究内容が本当であれば、新しい超伝導物質への応用や、有機物の新しい活用方法など、現実に大きく発展できる可能性が多々秘められたものであるはずだった。だから特許はベル研にとってきわめて大きな財産と見なされたわけである。

**V**、ITバブル崩壊後の大きな不振の中で、ベル研究所の親会社であるルーセント・テクノロジー社が経済性を最優

先に進めざるをえなかったがために、ベル研内での捏造発覚の機能がまったく働か<sup>e</sup>ないままに終わってしまった点は、非常に大きな教訓を残した。そもそもシェーンの捏造研究自体、ジリ貧にあえぐベル研究所からの強いプレッシャーがもたらしたものと、という見方もある。その<sup>①</sup>真偽はともかくとしても、インパクトのある研究を強く求めるベル研がスター研究者としてのシェーン像を作り出し、そこから捏造が次々と生まれていったことはある意味確かであろう。ピュアに知的好奇心を満たそうとする科学研究に **A**、利益、**B**、そうしたものが<sup>②</sup>カイザイしてきたとたん、そこに捏造が入り込む<sup>③</sup>ヨチを一気に広げてしまった。のみならず捏造をチェックし見出す仕組みを働かせないようにしてしまつたのである。事件は皮肉にも、科学が経済との結びつきの中でゆがんだ姿を露呈してしまつた、きわめてわかりやすい例となつたのである。

時代はしかし、ますます科学と経済との結びつきを強めていく方向にある。科学研究が<sup>④</sup>センエイ化するにつれ、研究に使うための精密で高価な装置や、研究のスピードを上げていくために多数の研究者を<sup>⑤</sup>登用するのにかかる人件費など、研究に必要な資金がさらに増大している状況が生じてきている。かつてのような、のんびりと科学の真理を<sup>⑥</sup>究めていく、<sup>⑦</sup>求道者のような科学者像は失われ、代わつて、プレゼンテーションがうまく、いろいろなどころから資金援助を引き出すことのできるスポークスマン的な科学者像が新たに生まれている。教授や研究リーダーには、これまでのような<sup>⑧</sup>学究肌よりも、営業センスのある人のほうが求められる傾向すらある。確実な成果と利益を求め、経済との結びつきが強まっていく中で、いったい科学はどういった方向へと進むのであろうか。<sup>⑨</sup>そしていずれにせよ、そうした科学の新しいあり方は、捏造や不正を生みやすい土壌をも生み出す。経済性との兼ね合いの中で、いったいどうやって不正を防ぐことができるのか。非常に重たい課題である。

(村松秀『論文捏造』)

\*1 私たちの番組……NHKスペシャル『論文捏造』のこと。

\*2 シェーンの事件……二〇〇二年に発覚した、当時ベル研究所に所属していた物理学者ヤン・ヘンドリック・シェーンによる論文捏造事件。科学史上最悪の不正と言われている。

問一 傍線㉠から㉡で用いている漢字を含んでいる語を、それぞれ次の1から5の中から選びなさい。解答番号は、

㉠は 、㉡は 、㉢は 、㉣は 、㉤は

- |   |      |      |      |      |      |      |
|---|------|------|------|------|------|------|
| ㉠ | レンケイ | 1 繫留 | 2 蓮華 | 3 携帯 | 4 系譜 | 5 係長 |
| ㉡ | カンゲン | 1 変換 | 2 原因 | 3 循環 | 4 源流 | 5 生還 |
| ㉢ | カイザイ | 1 材料 | 2 塵芥 | 3 財務 | 4 魚介 | 5 戒律 |
| ㉣ | ヨチ   | 1 関与 | 2 残余 | 3 一致 | 4 予報 | 5 知識 |
| ㉤ | センエイ | 1 映像 | 2 営利 | 3 洗淨 | 4 専制 | 5 優先 |

問二 、、、、 にあてはまる語の適当な組み合わせを、次の1から5の

中から選びなさい。解答番号は、

- |   |         |          |           |          |         |
|---|---------|----------|-----------|----------|---------|
| 1 | I つまり   | II 少なくとも | III だからこそ | IV ところが  | V また    |
| 2 | I だからこそ | II ところが  | III つまり   | IV 少なくとも | V また    |
| 3 | I つまり   | II また    | III ところが  | IV だからこそ | V 少なくとも |
| 4 | I だからこそ | II 少なくとも | III ところが  | IV つまり   | V また    |
| 5 | I 少なくとも | II つまり   | III また    | IV だからこそ | V ところが  |

問三 傍線⑦から④の漢字の読み方を、それぞれ次の1から4の中から選びなさい。解答番号は、⑦は

36

①は 37、⑦は 38、①は 39、④は 40

- |   |     |         |           |         |           |
|---|-----|---------|-----------|---------|-----------|
| ⑦ | 変貌  | 1 へんびょう | 2 へんよう    | 3 へんぼう  | 4 へんげ     |
| ① | 真偽  | 1 しんじ   | 2 しんせい    | 3 しんい   | 4 しんぎ     |
| ⑦ | 登用  | 1 とうよう  | 2 りゆうよう   | 3 とうよう  | 4 どのよう    |
| ① | 究めて | 1 つとめて  | 2 きわめて    | 3 もとめて  | 4 たわめて    |
| ④ | 求道者 | 1 くとうしや | 2 ぎゆうどうしや | 3 ぐどうしや | 4 きゆうどうしや |

問四 傍線①「事態はそう簡単ではない」理由として適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

41

- 1 現在が、科学の本質が変質しようとしている過渡期であることに、一般市民が無関心だから
- 2 従来以上に、いつそう純粋な科学的興味に基づいて研究が促進されるようになってきているから
- 3 企業が科学に深く関わることにより、利益を生むことが期待されるようになってきているから
- 4 科学の世界では、人を騙したり陥れたりしてでも研究を達成する知的好奇心が求められるから
- 5 企業は、科学研究に寄付金や人手を無償で提供することで理想的な製品を開発しようとしているから

問五 傍線aからeの「ない」について、品詞が異なるものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 a
- 2 b
- 3 c
- 4 d
- 5 e

問六 傍線②「秘密主義」と傍線③「金の生る木」との関連を示す本文中の最も適当な文章を、次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は

- 1 特許が絡んでいるために公けにできない情報がたくさんあるに違いない
- 2 情報をすべて開示し、世の中のために、追試を行うほかの研究者のために、その情報を有用に使ってもらおう
- 3 あらゆる研究の方法は本来、公けの名の下に捧げられるべきものであった
- 4 科学研究の予算の大部分は、国など公けの資金が用いられている
- 5 そうした認識が、科学そのものを変貌させてしまっている

問七 傍線④「論文の先取性」とはどういうことか。最も適当なものを次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 ある科学研究の予算に、公的資金や企業からの寄付金等をどのように得たかを公正に明らかにすること
- 2 社会に貢献するような科学論文でもって、純粹に知的好奇心を追究すること
- 3 研究者本来の姿として、公けの名の下に研究に関する情報を取りこぼしなく明らかにすること
- 4 必要なこととそうでないことをあらかじめ取捨選択し、論文の中には必要なことのみを記すこと
- 5 ある新しい事象を発見・考案した際に、誰よりも早く論文で科学界に知らしめること

問八 ・に入る語の組み合わせとして最も適当なものを次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- |   |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|
| 1 | A | 倫理性 | B | 共有性 |
| 2 | A | 公正性 | B | 重要性 |
| 3 | A | 可能性 | B | 事件性 |
| 4 | A | 経済性 | B | 採算性 |
| 5 | A | 先取性 | B | 隠蔽性 |

問九 傍線⑤「学究肌」とあるが、このような従来の研究者像と対比的に用いられている語として最も適当なものを次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 求道者のような科学者像
- 2 教授や研究リーダー
- 3 スポークスマン的な科学者像
- 4 多数の研究者
- 5 ピュアに知的好奇心を満たそうとする研究者

問十 傍線⑥「そしていずれにせよ、そうした科学の新しいあり方は、捏造や不正を生みやすい土壌をも生み出す」と筆者が考える理由として適切なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 47

- 1 経済と科学との結びつきが強まってくにつれて、科学研究に要する研究費は膨れ上がり、設備費も人件費も非常に高コストなものになりつつあるため、研究のスピードをさらに上げなくてはならず、研究者は疲弊するであろうから
- 2 プレゼンテーションがうまく、いろいろなどころから資金援助を引き出せるスポークスマン的な科学者が今後ますます増えていき、真の科学者のやる気が損なわれるであろうから
- 3 営業センスの高い研究リーダーや教授は、多くの場合、スター研究者になり得るが、それらの研究者は、やがて研究に関心を示さなくなり、企業の提案を鵜呑みにするであろうから
- 4 科学の新しいあり方は非常に不透明であり、その方向性の模索として、方法上のいきすぎた脚色やデータの粉飾などが危惧されるのはやむをえないし、むしろそうなることが必然であろうから
- 5 確実な科学的ならびに経済的成果を求める科学研究が推進されていくなれば、企業に利益をもたらすための研究が最優先されるであろうし、事前事後に不正をチェックする自浄作用も期待できないであろうから

(以下余白)